慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	東南アジアにおけるネイティヴィズムの比較研究
Sub Title	Comparative study of nativism in Southeast Asia
Author	山本, 信人(Yamamoto, Nobuto)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は東南アジア諸国におけるネイティヴィズムに関する比較分析である。2017年度はインドネシアとミャンマーにおけるネイティヴィズムの表象と実体に関する文献調査および現地調査をおこなった。 ネイティヴィズムとは, ①生まれながらの特性を重視する考え方であり, ②それが生来の土地と結びつく傾向をもち, ③そのためにあとからやってくる移民や外国人(異国人)に対する非寛容あるいは排除の論理となり, ④時にはその社会的な意識が政策に反映されて移民や難民の排除となることもある。このためにネイティヴィズムはナショナリズムの亜種として捉えることもできる。 文献調査では, 東南アジア諸国の枠を越えて, 欧米諸国において存在し, 時に顕在化するネイティヴィズムに関する歴史研究および政治学的・社会学的な研究にも目配りをした。これは, ネイティヴィズムの形成, 認識形態および発現形態の一般的なパターンを抽出する作業である。その結果としてネイティヴィズムには, ある国家におけるマジョリティが存在している場合, そのマジョリティが持つようになる政治的, 社会的, 経済的, 文化的, 宗教的などの危機感を反映して形成されるというメカニズムを有することが明らかになった。 今回調査をおこなったインドネシアとミャンマーでは, 特定の「外国人」に対する差別・排除意識が存在する。インドネシアではイスラム教徒がマジョリティであり, 華人に対する差別・排除意識, ヒンズー教徒と地域に対する差別意識がある。それに対してミャンマーでは, マジョリティである仏教徒がイスラム教徒ロヒンギャに対して排除意識を持っている。いずれの場合もマジョリティの社会的な保守化と宗教的な脅威を助長する言説が, ネイティヴィズムを形成する要因として指摘することができる。 My research is the comparative study of nativism in Southeast Asia. For the sake of comparison, I conducted my field research in Indonesia and Myanmar. Generally, nativism is a race-based animus toward immigrants. My literature research revealed that nativism has been formed and developed in many countries and regions when the majority feel insecure in political, social, economical, cultural and religious sense. Nativism is the majority's consciousness and attitude towards the minority or foreigner(s). It is in a sense a form of nationalism. Both Indonesia and Myanmar have the majority's nativism against particular "foreign" elements. In Indonesia Muslim majority show their nativism against ethnic Chinese, and Hindu dominated region and its people, whereas in Myanmar Buddshist majority is antagonistic against Muslism Rohingya. In both cases nativism reflects the majority's social conservatism and religious insecurity that have developed in the last two or three decades.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2018 年 3 月 22 日

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	1,000 （特A）千円
	氏名	山本 信人	氏名（英語）	YAMAMOTO Nobuto		

研究課題（日本語）

東南アジアにおけるネイティヴィズムの比較研究

研究課題（英訳）

Comparative Study of Nativism in Southeast Asia

１．研究成果実績の概要

本研究は東南アジア諸国におけるネイティヴィズムに関する比較分析である。2017 年度はインドネシアとミャンマーにおけるネイティヴィズムの表象と実体に関する文献調査および現地調査をおこなった。

ネイティヴィズムとは、①生まれながらの特性を重視する考え方であり、②それが生来の土地と結びつく傾向をもち、③そのためにあとからやってくる移民や外国人（異国人）に対する非寛容あるいは排除の論理となり、④時にはその社会的な意識が政策に反映されて移民や難民の排除となることもある。このためにネイティヴィズムはナショナリズムの亜種として捉えることもできる。

文献調査では、東南アジア諸国の枠を越えて、欧米諸国において存在し、時に顕在化するネイティヴィズムに関する歴史研究および政治学的・社会学的な研究にも目配りをした。これは、ネイティヴィズムの形成、認識形態および発現形態の一般的なパターンを抽出する作業である。その結果としてネイティヴィズムには、ある国家におけるマジョリティが存在している場合、そのマジョリティが持つようになる政治的、社会的、経済的、文化的、宗教的などの危機感を反映して形成されるというメカニズムを有することが明らかになった。

今回調査をおこなったインドネシアとミャンマーでは、特定の「外国人」に対する差別・排除意識が存在する。インドネシアではイスラム教徒がマジョリティであり、華人に対する差別・排除意識、ヒンズー教徒と地域に対する差別意識がある。それに対してミャンマーでは、マジョリティである仏教徒がイスラム教徒ロヒンギャに対して排除意識を持っている。いずれの場合もマジョリティの社会的な保守化と宗教的な脅威を助長する言説が、ネイティヴィズムを形成する要因として指摘することができる。

２．研究成果実績の概要（英訳）

My research is the comparative study of nativism in Southeast Asia. For the sake of comparison, I conducted my field research in Indonesia and Myanmar.

Generally, nativism is a race-based animus toward immigrants. My literature research revealed that nativism has been formed and developed in many countries and regions when the majority feel insecure in political, social, economical, cultural and religious sense. Nativism is the majority's consciousness and attitude towards the minority or foreigner(s). It is in a sense a form of nationalism.

Both Indonesia and Myanmar have the majority's nativism against particular "foreign" elements. In Indonesia Muslim majority show their nativism against ethnic Chinese, and Hindu dominated region and its people, whereas in Myanmar Buddshist majority is antagonistic against Muslism Rohingya. In both cases nativism reflects the majority's social conservatism and religious insecurity that have developed in the last two or three decades.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
山本信人	難民危機の政治－人道主義・安全保障・東南アジア	法学研究、90 巻 4 号	2017 年 4 月
山本信人	ネーションと国家がズレるとき―ナショナリズムをめぐる暴力への視点	アーレントと 20 世紀の経験	2017 年 9 月
YAMAMOTO Nobuto	Terrorism in Southeast Asia	Special Lecture at China Foreign Affairs University	2017.09.05
YAMAMOTO Nobuto	Terrorism and Counter-Terrorism in Southeast Asia	Special Faculty Seminar at China Foreign Affairs University	2017.09.07
YAMAMOTO Nobuto	A Colonial War on Terror: Chinese Gang Wars in the Netherlands Indies	Regional Conference, International Society for the Study of Chinese Overseas, 17-19 November 2017, Nagasaki University	2017.11.18
YAMAMOTO Nobuto	Fake News, Real Consequences: A Myanmar Case	2nd Keio-NCCU Media Seminar, Keio University	2018.02.23